

2006年9月23日

抗議声明

全日本建設運輸連帯労働組合
中央執行委員長 長谷川 武久

全日本建設運輸連帯労働組合
近畿地方本部
執行委員長 戸田 ひさよし

全日本建設運輸連帯労働組合
関西地区生コン支部
執行委員長 武 建一

昨日（22日）午前5時半頃、関西地区生コン支部の武委員長が逮捕され、組合事務所などが家宅搜索された。愛犬を連れて散歩中だった武委員長は衣服を取りに自宅に寄ることも許されず、ランニングシャツ姿のまま連行された。人を人として扱わぬ大阪府警の行為に対し、私たちは心底からの怒りを抑えることができない。

今回の被疑事実は、武委員長が勾留されていた大阪拘置所で刑務官から便宜供与を受けた、そして、その刑務官に対し保釈後に金員を渡した、というもののようである。

私たちは現時点で、残念ながら事実関係を十分に把握できていないが、早期に事態を解明し、反論を行う予定である。

ただし、この事件が昨年1月いらいの一連の権力弾圧の一環として、すなわち、私たちの正当な労働組合活動を破壊するために、リーダーである武委員長の政治的信用を失墜させる目的で仕組まれていることは明らかである。

たとえば、警察発表を鵜呑みにした一部メディアは、「(武委員長が) 贈賄容疑で取り調べを受けている同じ徳之島出身の暴力団幹部にボディガードを依頼していた」など書いて、武委員長があたかも暴力団と癒着しているかのような印象を与えようとしているが、いうまでもなく、そのような事実は全くない。私たちが「ストライキと称して生コンの出荷を妨害し、数億円に上る解決金を受け取ってきたという」などとする無責任な誹謗中傷も同様である。事実に基づかない悪意に満ちた報道と、意図してそれを演出する権力の手法を私たちは決して許さない。

そもそも今回の事件は、一連の権力弾圧に対する社会的批判が署名活動などを通じて全国に広がり、同時に、弾圧によって頓挫していた生コン業界の新たな基盤整備事業が再度軌道に乗り始めたタイミングを見計らって引き起こされている。実際、関西地区の生コン関連労組が共同歩調をとって06春闘解決を迫る最終交渉が、まさに週明けの9月26日に行われようとしていたのである。

しかし、私たちは決して屈することはない。これまでもそうであったように、国家権力がいかなる手段を用いようとも、中小企業と労働組合が力を合わせて産業政策運動を前進させて行く決意である。

以 上